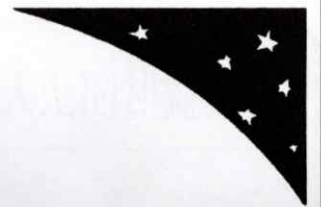




アジアの光

公益財団法人 東南アジア文化友好協会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-19-1012
TEL 03(3296)0192 FAX 03(3296)0193
URL: <http://www.safca.tokyo>



コロナ禍で会社を辞め 世界中を廻ってきた元中国人留学生

理事長 大野 克美

コロナ感染が始まって3年目になります。12月に入るとクリスマスシーズンになります。今年はその他、ロシア、ウクライナ紛争、中国を含めたアジアでの安全保障、エネルギー、生活に関係する物価高騰の問題等が連日マスコミで取り上げられています。SNSなどの通信の発達で、世界中のニュースが日本に入ってくるようになりました。財団の創設者である故加藤亮一牧師の時代とは、比べ物にならない程の情報が世界を駆け巡っています。いつも述べていることですが、東南アジア文化友好協会が関係した留学生、技能研修生が、インドネシア、シンガポール、カンボジア、ラオス、バングラディシュ、中国、フィリピン等に戻って祖国で活躍しています。今回は中国関係の元留学生さんを紹介します。中国との関係は日本の将来に関してとても大事で、アメリカとの付き合いと同じくらい重要です。10年後、20年後の世界のリーダーも変わっているでしょう。中国の人に関する人を紹介する場合は、少し注意が必要です。中国の情報管理はとても細かく、特に人物に関しては表現できることが限られてきます。Aさんとしておきます。Aさんは中国の有名な大学を卒業し、日本が大好きなので日本と中国の懸け橋となれるような仕事につきました。日本と中国を行ったり

来たりの往復で、大変忙しく働きました。日本と中国を往復する航空会社で、飛行機を利用した回数が一番多かった人とも言われたそうです。コロナの感染が日本でも中国でも広がり、ビジネスにならなくなったそうです。Aさんは若かったので、会社をすぐ辞め、「コロナ禍でも注意しながら、世界中を見てこよう」と決心しました。彼は「自分は中国人なので、他の国の人達が何を考えているかを知りたい」と南北アメリカ大陸、ヨーロッパ、北欧、中近東、アフリカ、アジアと2年間、旅を続けたそうです。中国でも多くはいませんが、このような人が増えているそうです。自分の専門分野での知識を持ち、世界の人達との交流を深める人達が中国でも広がっているようです。今の中国ではこのような人達が、今後どのように活躍できるか未知数です。中国についても、彼の廻ったいろんな国の話でも、とても参考になる話をしてくれます。中国も、アジアの国も、それぞれ難しい問題を抱えています。これらの難しい課題を解決していくのは、「今の若い世代の人達です」。東南アジア文化友好協会に関係した留学生は故加藤牧師の「人間はみな兄弟である」この精神を理解している留学生が多くいます。この人たちが活躍できることを願っています。

和をもって共生する

専務理事 市村 和夫

南十字星

聖徳太子の十七条の憲法の第一条に「和をもって尊しとなす」という条文があります。東南アジアの国々は、宗教(イスラム教・ヒンズー教、キリスト教、仏教、神道など)や、政治体制(民主主義、共産主義など)、言語、文化、風習などにおいて相違があり、多様性に富んでいます。このような中で、お互いに「和をもって共生すること」は、大切なことです。お互いの国のために祈り、感謝し、尊敬し、理解し、次のことを実践したいと思います。

- ①それぞれの国の素晴らしい点、優れた点、強い点などを見つけ、お互いに更に成長できるように、学び合いましょう。
 - ②それぞれの国の必要、改善、改良すべき点などを見つけ、助け合い、仕え合い、与え合い、お互いに協力し合っていきましょう。
- 公益財団法人「東南アジア文化友好協会」に關係する私たちは、「和をもって尊しとなす」というスピリットをもって、東南アジアの国々の皆さまと共に、「和をもって共生する」關係を、より深く、より長く築き上げていきたいと願っています。